

去勢肥育牛における 飼料用米の加工粒度の違いによる影響

近年、飼料用米の生産拡大と利用の促進により、肥育牛に飼料用米を給与する肥育農家が増加しています。そして、様々な加工粒度に破砕加工できる機械が販売されていますが、加工粒度の違いにより、デンプンの消化率に影響することが乾乳牛を用いた試験から明らかになっています。しかし、肥育牛への長期給与による影響は明らかになっていません。そこで、千葉県畜産総合研究センターでは、肉用種去勢肥育における飼料用米の加工粒度の違いによる影響を明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 配合飼料の 40%を破砕米（破砕機で加工、2.0mm 以上の粒の割合が 46.2%）や粉碎米（粉碎機で加工、2.0mm 以上の粒の割合が 4.5%）で置き換えてホルスタイン種去勢牛に給与すると、粉碎米のデンプン消化率が破砕米より高い傾向を示しました。
2. 配合飼料を破砕米で置き換える割合を 20%から 40%に増加させて交雑種去勢牛に給与すると、糞中の未消化のデンプン割合が上昇しました。
3. 配合飼料の 20%を破砕米や粉碎米で置き換え、黒毛和種去勢牛に肥育中期(15.1 ヶ月齢)から出荷まで給与した場合、発育や肉質、脂肪酸組成および枝肉成績に差がありませんでした。
4. 以上のことから、配合飼料の 20%程度を粃米で置き換え長期間給与しても加工粒度の違いによる枝肉成績への影響はないことが示されました。



図1 破砕米（破砕機で加工、2.0mm以上の割合46.2%）



図2 粉碎米（粉碎機で加工、2.0mm以上の割合4.5%）

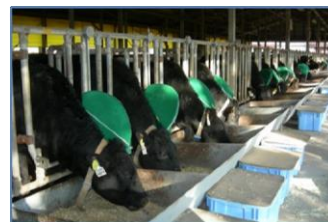


図3 給与試験場

☆活用面での留意点

1. 飼料用粃米の給与の際には、粃殻の粗飼料効果を考慮して粃殻相当量の 4～6 割程度の稲わらを減じて給与メニューを変更する必要があります。
2. 詳しくは、千葉県畜産総合研究センター乳牛肉研究室 諸岡佳恵（TEL043-445-4511）にお問い合わせください。